

## 第 110 回 防災カフェを開催しました。

# スマホで防災

～ 防災アプリで災害に備えよう ～



日時：2026年5月26日（火）18時30分～20時30分

ゲスト：滋賀県県土整備部 流域政策局 流域治水政策室 津崎 慎也 さん

ファシリテーター：滋賀県県土整備部 流域政策局 流域治水政策室 中西 宣敬 さん

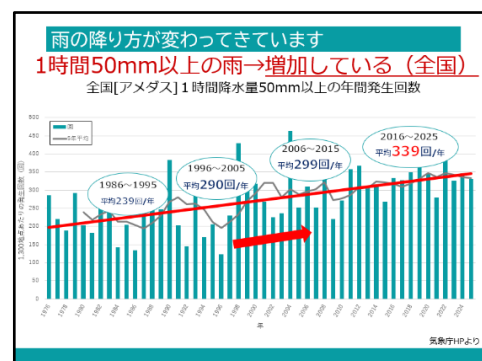
県では、災害情報や道路情報、気象情報など様々な防災情報をまとめて提供できる「**滋賀県防災アプリ**」を開発しました。大雨や台風が心配される時期を前に、水害への備えについてお話しいただくとともに、アプリの様々な機能を説明していただきました。

### 近年の降雨と水害の発生状況

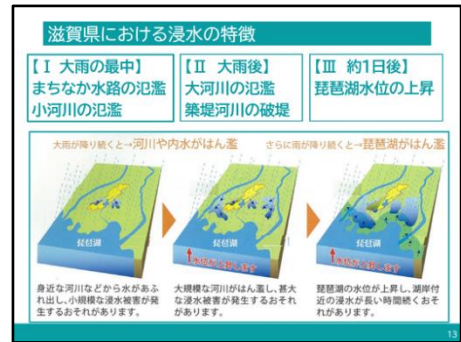
**中西さん**：1時間に50ミリ以上の雨の10年ごとの発生回数は1986年から1995年では年平均239回発生でしたが、2016年から2025年では平均で339回と100回以上も増えています。短時間の豪雨、線状降水帯も含めた豪雨が増加しています。平成27年の関東東北豪雨では大規模な避難、ヘリコプター等により救助もされたのですが、14名の方が亡くなられた水害でした。平成30年7月の西日本豪雨では、岡山県倉敷市の真備町で広範囲の水害となり、200名を超える方が亡くなりました。更に令和元年に関東を直撃した台風により100名を超える死者が出ています。三重県で地下駐車場が令和7年8月に水没してニュースになりましたが、1ヶ所に雨雲が集中する線状降水帯の発生という気象状況が最近頻発しています。能登でも地震と豪雨が連続して起こり、多くの方がお亡くなりになりました。平成30年7月の西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町は家屋の1階部分が水没して、非常に広範囲に浸水しました。51名の方が1階で亡くなられたことが調査でわかりました。そのうち42名の方は2階があったにもかかわらず、1階で亡くなられたということです。2階に避難することで命が守れたという可能性も考えられるという被害です。

### 水害・土砂災害リスクについて

大雨が降り続けると、身近な水路や小河川の氾濫が始まり、少し遅れて大河川の氾濫が始まります。



半日から 1 日くらい間が空いて琵琶湖の水位上昇が始まるという特徴があります。滋賀県における水害リスクの状況は、地先の安全度マップという滋賀県独自の地図で公表しています。10 年確率降雨、100 年確率降雨、200 年確率降雨という多段階のリスク情報になっているのが特徴です。想定最大の図を見ると、どこに逃げて良いかわからなくなります



が、10 年確率の豪雨予測により、浸水が始まる初期段階ではどこが浸かりやすいかを調べられます。滋賀県防災情報マップを検索いただくと、地震の他に水害や土砂災害のリスクマップもありますので、ご自宅や会社の周りのリスクをハザードマップで確認できます。また大きな河川の周辺では家屋倒壊等氾濫想定区域図も公表しています。滋賀県も築堤河川、天井川などで堤防が決壊したときに家が流されてしまう恐れがあります。堤防が決壊する場所によって被災する範囲は大きく変わりますが、自分たちの住んでいるところが決壊した場合には、どれくらいの範囲で家が流されてしまう恐れがあるかということも確認いただけます。浸水マップで浸水深が 3 m 以上と想定されている区域は、2 階建ての建物がほぼ 3 m の高さとなりますので、2 階に避難しても浸水するリスクがあります。また浸水深が 50 cm を超えると平屋の家屋では浸水してしまうリスクがあります。家屋倒壊の恐れがある範囲にお住まいの場合は早めの水平避難が望まれます。

### 避難行動と注意すべき箇所

土砂災害のリスクでは土石流やがけ崩れのリスクを評価しています。赤色と黄色で図示をしていますが、赤色のところは土砂災害特別警戒区域です。木造の住宅なら壊れてしまうような力がかかるエリアで、黄色の範囲は土砂が到達する恐れがあると想定されるエリアです。この区域は早めの避難が必要になります。逃げ遅れて浸水が始まったときや真っ暗な夜の場合、外に出ることが危険なこともあります。早めの避難が原則ですが、無理をして避難しないことも命を守る対策になります。2 階など少しでも高い場所に避難する、土砂災害のリスクがある場所なら、斜面の反対側に退去するといったことも考えられます。

### 防災情報の収集・避難行動の事前検討

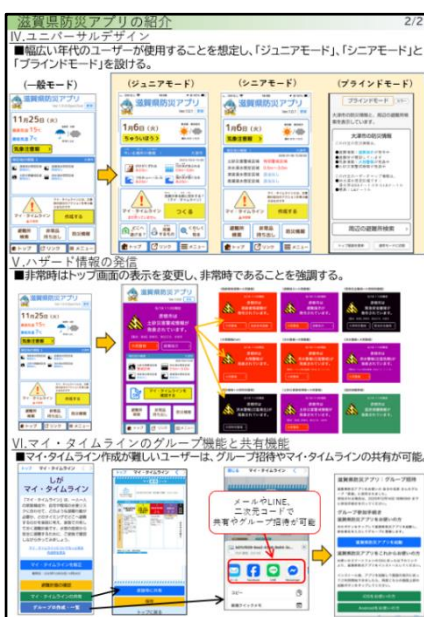
倉敷市真備町の浸水のハザードマップで浸水が想定された範囲と実際に浸水した状況はかなり近いことが確認されました。滋賀県内の各市町からハザードマップが配られていると思いますので、しっかりご覧いただくことが大切です。「しらしがメール」や「しらしがLINE」というサービスも用意していますので、登録しておくことで雨量観測情報や水位の観測情報、土砂災害の危険情報などが発令されると通知が届きますので、避難行動を考えていただくきっかけになります。今年の3月には中小河川浸水想定区域を新たに指定しました。これまで野洲川や日野川などの大きな河川でのみ公表されていましたが、中小河川も含めた形となり、滋賀県全域で浸水リスクが表示されています。地先の安全度マップも、滋賀県全域の平野部については水害浸水リスクを公表していましたが、

山域の部分が測量データの取得などの技術的な問題や解析の精度の問題もあって対象から外れていました。全域の浸水リスクが表示されるものに更新いたします。防災アプリも3月にリリースしました。滋賀県防災アプリで検索していただくと、ダウンロードのサイトが出てまいります。

## 防災アプリの紹介

**津崎さん**： これまでは防災ポータルや土木防災情報システムなどで、個別に避難情報や避難場所の情報、道路関係の情報、河川に関する情報、土砂災害に関する情報を提供してきました。これらの情報を集めてお知らせできる滋賀県防災アプリを開発しました。スマートフォンで使用できるアプリです。トップ画面には、注意報や警報などの気象情報や、土砂災害の情報、洪水浸水想定区域や津波、高潮での浸水が想定される区域などのハザード情報も表示されており、危険な場所にいる時に、その場所でどれ程のリスクがあるのかが表示されます。

トップページには避難所検索というボタンもあります。このボタンを押すとマップ画面になり、各種のハザードマップの閲覧や滋賀県が持っている河川カメラや河川水位の情報、道路カメラや道路通行規制の情報が表示されます。避難所の場所や開設している避難所情報が地図上で検索でき、どこの避難所が開設されているかを災害時に確認することができます。他に、マイ・タイムライン作成機能があります。滋賀県では水害や土砂災害に対して、事前にどういった行動をするかという行動計画マイ・タイムラインを作ることを推奨しています。画面の選択肢を選ぶとマイ・タイムラインを作ることができます。



トップ画面は通常、一般モードですが、画面モードからジュニアモードやブラインドモードも選ぶことができます。ジュニアモードは表現を簡単にして、小学校4年生以上のお子様でもわかっていただける表現にしています。漢字にはルビをつけており、簡単な日本語ならわかる外国人の方にも災害に関する情報を理解していただくことができます。ブラインドモードは文字だけの表示で、スマートフォンに音声読み上げ機能があれば、情報を読み上げてくれます。また災害が実際に起こった場合は、トップ画面の表示がレベル3以上の気象情報が出た場合には赤色、レベル4の危険警報が発表されると紫色の画面になります。国民保護情報、Jアラート情報が出ると緑色の画面となり、画面を見ただけで、一目で

危険な状態だということがわかります。

マイ・タイムラインは自分用に作るだけではなく、自治会や家族などのグループで共有して持つことができます。高齢者の方にはスマホの操作が難しいと思われそうですが、若い方がタイムラインを作って、おじいちゃんやおばあちゃんを招待すれば、高齢者の方もマイ・タイムラインを持つことができ、避難情報が出た場合に、どういった行動をとれば良いかを共有することができます。

滋賀県防災アプリと検索するとアプリをダウンロードすることができます。マップ画面でハザードというボタンを押すと土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域、大きな河川では家屋倒壊等の氾濫区域などが示されます。浸水想定区域を選ぶと警戒区域や浸水が想定される区域が表示され、土砂災害警戒区域では山手の危険な箇所がわかります。津波の情報や高潮の浸水想定区域の情報も表示されます。地先の安全度マップは滋賀県だけの情報ですが、全国の情報も表示できます。土砂災害危険度情報や、雨雲レーダーの情報、河川カメラの情報やダムの情報も表示することができます。道路の通行規制情報や道路カメラの情報も増える予定です。他にも非常時の持ち出し品の持ち出しリストを作成したり、現在地の防災情報一覧も確認できます。他にもプッシュ通知機能や、全国の避難所リスト、ダムの緊急放流情報を受け取ったりすることもできます。



参加者からいくつか質問がありました。その一部を紹介します。

**問:**避難所検索で表示される場所がグラウンドであったり、民間の一時避難場所であったりします。

住民への説明の際にはどのように説明したらいいのでしょうか？浸水深が 50 cm 以下と表示された場合は垂直避難を推奨してよろしいでしょうか。

**答：中西さん：**浸水深 50 cm 未満のところは垂直避難でも問題はないと思いますが、浸水深が変わることもありますので、2階がない平屋にお住まいの場合は、基本的には早めの水平避難を考慮いただければと思います。

**津崎さん：**避難所を検索していただく際に、避難所と避難場所を選べるようになっています。避難所だけにすると避難所が表示されます。開設中の避難所は避難所だけの情報ですので、避難所に関する情報となっています。

**問：**大津市が運用している防災ナビなど以前から運用されているアプリ等は、県の防災アプリとすみ分けるのですか。似たような情報の表示にならないか、機能を分けて幅広く情報提供してほしいです。既存の防災情報と比べて今回のアプリが優れている点はどこでしょうか。

**答：津崎さん：**河川情報や道路情報も近々追加されますし、道路の情報がマップ上に表示されます。

マイ・タイムラインを作ることによって河川の情報などを避難するタイミングとして設定することができることは滋賀県が提供するアプリの特徴です。市町が提供されているアプリには県の情報では載せきれない細かなハザード情報を載せられています。例えばアンダーパスの情報などです。

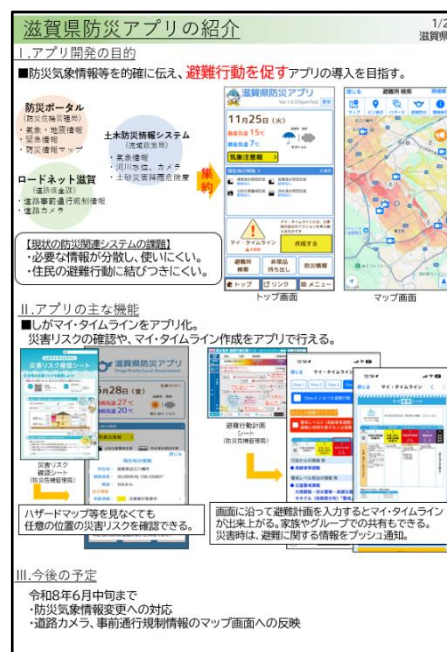
**中西さん：**防災アプリでは、市町から発令される避難指示の情報や避難所の開設情報などもリアルタイムで対応できるように、多くの市町に既に登録いただいている情報ですので、県の防災アプリを入れておけば、河川の情報、水害土砂災害に関する危険情報や市町からの避難指示なども一元的にご覧いただけるようになっています。

**問：**高齢者の方などデジタルに弱い方にはこのアプリは難しいのではないのでしょうか。

**答：中西さん：**自治会の半分ぐらいの方がアプリを使えると、情報伝達はこれまでよりも早く早くなるメリットがあります。従来からの電話連絡で伝えないといけないう方、個別にお家に行って伝えないといけないう方は今後もあると思いますが、アプリを使うことで情報の周知が早くできると考えています。自治会単位なら、よく似たタイムラインで避難できると思いますので、防災士の方などと連携して、自治会単位で作って皆さんで共有するといったことを進めていけばと思います。

**津崎さん：**マイ・タイムラインの作り方について説明します。

トップページのマイ・タイムラインという黄色いボタンを押すとマイ・タイムラインの画面になります。例としてグループのマイ・タイムラインを作成します。一つの端末で5件までマイ・タイムラインを作ることができます。職場のマイ・タイムライン、ご家庭のマイ・タイムライン、自治体のマイ・タイムラインなど複数のマイ・タイムラインを持つことができます。グループの名前を決め、グループで表示する自分の名前を入力します。青色のグループ・マイ・タイムラインを作るというボタンを押します。ステップ1～5まであります。まずステップ1でマイ・タイムラインを作る場所を決めます。地図上の十字のカーソルを作りたい位置に合わせてボタンを押します。現在地でも作れます。次にステップ2で避難行動を考えます。選んだ場所が洪水浸水想定区域内で0.5m～3mの浸水が最大規模で起こる場所とすると、水平避難、避難所などに避難しましょうという案内が表示されます。ただし、浸水する深さよりも高いところに避難できる、少なくとも3日以上食料や水が確保できている、簡易トイレなので困ることはないという条件がある場合には垂直避難も選べます。避難所は緑のボタンを押すと小学校や中学校、公民館などの候補が出てきます。登録ボタンを押して避難先を決めます。家族に高齢者や妊娠している方など移動に時間がかかる方がいる場合はチェックを入れます。ステップ3で避難のタイミングを決めます。警戒レベル2の注意報クラスで逃げる、警戒レベル3の警報クラスが出たら逃



げる、警戒レベル4の避難情報、避難指示が出てから逃げるなどから選びます。ステップ4では、とるべき避難行動を決めます。気象警報レベル3が出たら逃げるという避難のタイミングの設定や琵琶湖に近い位置なら琵琶湖の水位で逃げるという設定もできます。気象台が出す注意報や早期注意情報が発令されると通知が来るように設定したり、氾濫注意情報が出たときに逃げるという警戒レベル2の情報を設定できます。次に警戒レベル1の気象情報の確認などを設定します。レベル1の情報を入れないのであれば、確認のボタンを押して、レベル4の情報を入れていきます。最後のレベル5では既に避難所に逃げていますので、どのような危険な状況があるかを確認してボタンを押します。最後のステップ5では避難をするときに何を持って避難するかを選びます。飲料水や食品または携帯ラジオ、衣類などを選びます。他に持っていくものがあるときは任意で入力することができます。すべて入力できれば、マイ・タイムラインとして登録します。つくったマイ・タイムラインに家族などを招待するときは、招待というボタンやメールやQRコードを読み取る形で招待することができます。

**中西さん:**マイ・タイムラインの機能は、土砂災害のリスクがあるか、大きな川の洪水想定範囲に入っているかという情報が最初に出てきます。どういリスクを避難の目安にしないといけないかに気づいていただけるようにしています。最初は手間もかかると思いますが、ご家族やご自宅のリスクを理解していただくことができます。



中西さん(左)と津崎さん(右)

津崎慎也さん、中西宣敬さん、参加者のみなさん ありがとうございました。